

小学4年生の乃愛ちゃん、デビューを夢見て特訓中

「高校生の解説姿にあこがれて」

白老小4年の井澤乃愛さん。同館の「陣屋の日」イベントやホテル観賞会などで、解説ボランティアを努める白老東高校のお姉さんらの姿にあこがれ、「私もなりたい!」と昨年9月、友の会（川西政幸会長）の“門をたたき”、準会員となりました。

今は学校が休みの土日曜を利用して月2, 3回、1回2時間ほどはびっしりと特訓中。展示室入り口から順路に沿って知識を蓄えているが、「まだ三好監物さんや地図のあたりです。覚えることがいっぱい楽しい」とやる気満々の笑顔を見せています。指導する同館スタッフは「とにかく熱心で、覚えが早い。順調に伸びています」と頼もし気。

「ここには本物の資料がありますし、白老の昔のことを知ることができます。私がガイドすることで『友達と行ってみたい』という気持ちになってくれればいいな」と、真っすぐに高校生のお姉さんらの姿を追いかけています。



町高齢者大学令和5年度第7回定例講座

「チラッと広報紙 それがまちへの関心に」

町広報編集室室長・編集長の竹浪さん

「みんなで創ろう おらがまちの広報紙」を演題に白老町の広報紙の在り方を語り、大学の皆さんや関係者を合わせ60人以上が聴き入りました。

出来上がるまでのスケジュールや苦労したこと、力を入れているポイントなどについて説明し、「まずは興味を持ってもらいたい。読まなければ意味がないので、少しでも関心を持つような仕掛けをちりばめ、『まちの息吹の見える紙面づくり』をしています」と話しました。

新聞記者の経歴から独自の視点でさまざまな人に着目し、伝えたいことが分かりやすい記事か、細かいチェックなど紙面全体に配慮しながら編集室は紙面を作っています。常に紙面の向こうにいる読者を思い浮かべながらの作業は「町民皆さんの手元に届き読んでもらって初めてひとづくりです」。休憩時間や講演後に飛び交う質問も多く、参加者の皆さんの関心の高さが感じられました。（12月12日）



展示

新春ミニギャラリー 広報紙を身近に

「広報元気 表紙写真で振り返る2023年」

広報編集室、役場、町民のみなで創った『おらがまちの広報紙』、白老町広報「元気」。今年も広報編集室と企画財政課合同主催、ひまわり印刷株式会社協力で、1年間を振り返る写真パネル展を開催します。毎月の表紙写真を「こんな色だったのね」とあらためて鑑賞できるカラー（A3判）と、紙面掲載の有無にこだわらないお楽しみ写真（A4判）を各月1枚添えます。会場は役場1階ロビーで、1月4日(木)から19日(金)まで展示します。来庁の折にぜひご覧になって本町の息吹きを少しでも感じていただければ幸いです。（広報編集室）